

## ▶▶▶ P.2からの続き

る人が大好きで、そういう人たちに会って、私もまだがんばれる、もう少しがんばろうってエネルギーをもらえることが、やりがいにもなっています。私は学生団体として活動に関わる人が多いですが、例えば10人くらいのメンバーがいて、みんなで企画して活動を進めていく時に、必ずコアメンバーが3人とか2人になってしまうことが多くて、一人で踏ん張らないといけない立場になるとけっこう苦しい。でも、楽しくやっています。

松尾 人の話を聴いたり、耳を傾ける力が、すごくついたなと感じます。聴く力が上がったことは、日常生活や仕事にも役立つので、よかったと思います。家と職場の往復になるのがいやで、他にコミュニティが欲しいという思いがあったのですが、実際にいろいろな人に出会う機会が多い。臨床心理士や大学の先生など、自分の仕事だけでは関わらないような分野の人たちと出会って、自分の力が伸びたり、価値観が変わったり、いろいろな見方ができるようになった。仕事を始めた頃は、仕事を優先しなければならなかったのですが、平日に活動があると、正直疲れていやだなと思ったことはあります。それでも続けているのは、自分の実りになることが多かったから。また、「聴く」ことに長けたスタッフが周りにたくさんいて、何かあれば、そこに行けば、誰か話を聴いてくれるという環境があるので、続けられたと思います。

## 対話を大切に、SNSも駆使して

司会 新しくボランティアさんを受け入れる時に、心がけていることはありますか。また、活動を広めて、多く

の人を巻き込んでいくために工夫をしていることがあれば教えてください。

佐藤 僕自身一人で緊張しながら活動に入ったので、先輩がすごく話しかけてくれて、緊張が解けた。そういうことを僕もやっていこうと思っています。参加してくれた人には、遠くから見てるんじゃなくて近くまで行って話しかけたりとか、初めは趣味の話とかをして、より近くなったらボランティアの話題をしたり、会話を通して、なじんでもらえるようにしています。ボランティア協議会のポスターを学校のいろんなところに貼っているんですが、ボランティアは敷居が高いと感じる人も多いので、ポスターに「気軽に参加して!」と壁を低くするような言葉を書くようにしています。実際に「気軽に!」という言葉を見て参加した人もいますので、そういうちょっとした工夫も必要かなと思います。

藤本 初めてボランティアに挑戦してみようという学生さんには、ボランティアに壁の高さを感じてほしくないなと思うので、単純に子どもが好きだから参加するんだよね、みたいな、楽しさの部分のお話をするようにしています。その子を支えるじゃないですけど、応援したり、寄り添ってみたりということはやっていきたいと思っています。

松尾 人を巻き込むには、まずは活動を認知してもらわないといけないので、ボランティア団体が出ているイベントに積極的にブースを出して、活動紹介をする。あとはホームページを作ったり、ブログをやったりとか、まずは認知を徹底するということでしょうか。

下郷 私たちはツイッターとフェイスブック(FB)とホームページをやっていて、FBはできるだけ頻繁に投稿するようにしています。よく聞くのが、FBを見ていいなと思って参加したという声なので、やっぱりFBの力は大きいなと感じています。それから「名古屋 高校生 ボランティア」って検索すると、私たちのページがヒットするので、そういうキーワードを多用するようにしています。

黒川 最初に団体に入った時は、メンバーは5人くらいで知名度もなかったのですが、どうにか広めたいなと思って、FBを作りました。また、先日ボラみみさんなどと一緒に「ぼらマッチ!なごや」\*というイベントに参加してきましたけど、そういうところに積極的に部員のみならずにも参加してもらって、活動を広めていきたいと思っています。やは

り知名度は大事なので、私自身あまり人前でしゃべるのは得意ではないけど、PRできる場があれば参加していこうと思っています。

## 私たちの未来は明るい!

司会 最後に、ボランティア活動を通して発見したこと、また、今感じていることを一言ずつお願いします。

松尾 ボランティアは「いいことをやっている」「すごい意識の高い人がやっているもの」というイメージがあったんですが、もちろん意識の高い人はいっぱいいますが、やることによって意識を高めていけるとか、高くなっていくということがあるんだなと感じています。たいへんとか、しんどいことも多いと思っていたんですが、やってみると、達成感とかよかったなと思うことの方が多いです。

藤本 すべてがつながっているということが、ボランティアを通して発見したことだと思います。地域に根差しているところだったり、地域の活性化につながる。食に関するボランティアを通して地域を見ていたら、ぜんぶつながっていて、どれもすごく大事なことだなと実感しています。

佐藤 仲間と一緒に取り組む大切さを学んでいきました。例えば以前、ペットボトルのキャップ800個でワクチン1本分になるという取り組みのために、キャップの回収

率を上げようと、キャップで絵を作るキャップアートをやりました。一人じゃできない、みんなで1つのものを作る醍醐味を体感しました。

下郷 国際協力に興味があって、行動に移すことができる高校生が多いなと感じています。私は先輩の紹介で始めたんですけど、私たちのFBを見て、いいなと思って連絡してくれたという子が多くて、私が言うのもあれなんですけど、「え、すごいうれしいな」と感じています。高校生ってすごいなって思います。

黒川 中学生と一緒にボランティア活動をしていて、自分が中学生だった頃と比べて参加者の数が多いなと思います。社会貢献をしようと、若い子たちの目が向いているなあとということに最近気づきました。募金活動をしていても、募金してくれる子の年齢層が、小学生だったりすることも多くて、「あ、未来は明るいな!」ってすごく思います。

## \*「ぼらマッチ!なごや」

ボランティアを「したい人」と「必要としている団体」が出会い、お互いを知るイベント。さまざまな分野の団体・施設のブース、ボランティア経験者による講話やボランティア体験コーナーなどが開催される。  
(主催 名古屋市・名古屋市社会福祉協議会)

## Information

今年も総会にあわせ、第二部として「ボランティア」に焦点をあてたパネルディスカッションを開催します。皆さま、ぜひご参加ください。

日時: 11月27日(日)13:00 ~ 16:30

第一部 13:00 ~ 14:15

・特定非営利活動法人ボラみみより情報局 第14回通常総会

・第3回 ボラみみアワード表彰式

第二部 14:30 ~ 16:30

~『なごやのボランティア史』編纂委員会キックオフイベント~

「ボランティアのこれまでとこれから」

場所: 名古屋YWCA ビッグスペース(名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル2階)

参加費: 無料

第二部のあと、交流会を行う予定です。こちらもぜひご参加ください。

